

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	美術		
英文授業科目名	Arts		
開講年度	2005年度	開講年次	1、2年次
開講学期	2、4学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	古屋 祐子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
日本の美術作品に関する基礎的な知識を修得すると共に、各時代の作品の鑑賞を通じて日本人の美に対する感覚や、今日まで継承されてきた伝統を捉えることを目的とする。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書：田中日佐夫監修『すぐわかる 日本の美術』（東京美術） 参考文献は初回の講義の折に提示する。参考資料のプリントを毎時間配布の予定。

【授業内容とその進め方】
日本の美術作品の特徴を、分野別に、原始から近世までの歴史の流れに沿ってみていく。スライドを用いて作品の理解を深める。 (扱う分野) 土器・土偶・埴輪、寺院・神殿、仏像・神像、やまと絵・絵巻、かな、甲冑と刀、水墨画、能面と能装束、茶器と茶室、城、障壁画、琳派、浮世絵、民芸

電気通信大学 平成17年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(評価方法) 出席状況(10%)、レポート提出(20%)、
期末試験の結果(70%)により総合評価する。

(評価基準) 出席状況：講義回数の半数以上出席のこと。
レポート：課題に従った内容となっていること。
期末試験：作品の造形上の特徴をつかんでいること

【オフィスアワー：授業相談】

講義終了時～午後1時まで

【学生へのメッセージ】

西洋化した生活を送る現代において、日本の、しかも近代以前の美術は本当に遠い存在になってしまった。しかしそれらは、西洋ではない、中国でもない、日本の物の捉え方や感じ方、何を善しとしたかという判断の基準などを考える契機を我々に与えてくれる。

【その他】